

## ①はじめに



### 土木学会 企画委員会 若手パワーアップ小委員会

「若手パワーアップ小委員会」は若手土木技術者の学会活動の活性化、ひいては、学会全体の活動の活性化のため、学会事業の諸策を検討、提案し、その具体化を図ることを目的とし、土木学会100周年記念事業である「若手土木技術者の交流サロン」の継続事業として発足した。土木業界の将来を担う若手技術者の地域レベルあるいは全国レベルでのネットワークの構築を図ることを目指し活動を行っている。

本報告では同様の趣旨にて設立された「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会（(公社)日本技術士会北陸本部）」との連携により行っている、若手による新潟県の建設関連産業活性化に資する取り組みを報告する。

### 若手パワーアップ小委員会 メンバー構成

30～40代の若手会員が中心となり、さまざまなメンバーが所属を越えてともに活動しています！

建設コンサルタント……	6	空港会社……	1
学校……	5	JR……	1
建設業……	3	地方公共団体……	2
高速道路会社……	1	官庁・独立行政法人……	1

新規委員も随時募集中です！  
twitterで @jsce\_wakate に reply !



JSCE JSCE Young Engineers Power Up Sub-Committee

## ②本活動経緯・目的

新潟県では建設関連産業（建設業・建設コンサルタント業・地質調査業・測量業等）の担い手育成の支援事業として、「新潟県建設産業マンパワーアップ総合支援事業補助金制度」が設けられており、こうした補助制度を活用しながら新潟県の担い手育成の支援事業を展開しようと、平成28年7月に（公社）日本技術士会北陸本部にて「青年技術士委員会 新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」が組織された。

予てより土木学会若手パワーアップ小委員会では、業界の人材確保・人材育成・建設業界イメージアップに資する活動に取り組んでいたことより、同様の目的を持つ新潟県の若手技術者と連携を深め、人脈形成を図ることで、建設産業活性化への取り組みをより活発に行う体制構築に繋がると考え、「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」との連携した取り組みをスタートさせた。

## ③【取組内容】連携会議の開催

連携活動のキックオフとして、実際のフィールドとなる新潟県にて「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」との意見交換を行う連携会議を開催した。会議では業界における「担い手確保」「人材育成」「建設業界のイメージアップ（広報活動）」等に対して、お互いの委員会にて抽出した課題や業界活性化等に資する企画の提案を行い、活発な議論により、今後の連携活動の方向性や具体的な活動予定を立てることが出来た。

### 【会議にて議論された活動予定】

- ・建設業界における現状の課題や魅力、また、将来への期待をより多くの分野や年齢の方々から抽出することをテーマにディスカッションが出来る場を設ける。
- ・若手技術者を対象とした研修会を開催する。



↑ 会議の様子

## ④【取組内容】連携公開会議の開催

平成29年1月13日土木学会若手パワーアップ小委員会及び新潟県若手マンパワーアップ小委員会の連携公開会議「建設関連産業の活性化へ向けてのロードマップ」～中堅技術者が建設関連産業の魅力と将来を語る～を新潟大学駅南キャンパスにて開催した。

公開会議は土木学会小委員会委員、新潟県内で建設業PRを行っている自治体や企業の若手・中堅技術者をパネリストとして、現状の問題点等の抽出、建設関連産業の活性化に向けたロードマップを提示することを目的に行った。

第1部はコーディネーターを務められた新潟大学工学部大竹准教授の講演、第2部は各パネリストからの発表、第3部はパネルディスカッション形式で会場との意見交換も行う総合討論というプログラムで実施した。当日は定員60名の会場はほぼ満席となり、若手からベテランまでの聴講者を交えての活発な意見交換が行われた。また、新潟大学工学部の学生も多数参加し、学生の生の声も聴くことができた。

また、連携会議の様子は土木学会若手パワーアップ小委員会のTwitterにリアルタイム公開を行い、そこでも多くの反応があった。

総合討論での意見には、「建設関連産業へのイメージは親からの影響が大きいことや、大学生よりも若年層へのアピールが必要」とあり、イメージアップに資するPRの対象や方向性が明確になったと考えられる。

各パネリスト発表の様子→



←パネルディスカッションの様子



総合討論の様子→

## ⑤【取組内容】研修会の開催協力

平成29年3月4日「土木の未来を考える～若手が創る新しい業界のカタチ～」と題し、「i-Construction」で私たちの仕事はどう変わるのかをテーマに、将来への「希望」について考える場とした研修会を新潟県技術士センタービルにて開催した。

内容は国交省生産性革命の説明からi-Construction適用第1号工事の紹介、ICTの活用の現状等について産官学の講演者による5講演で構成された研修会であり、繁忙期での開催ではあったものの、学生からベテラン技術者まで多くの方に参加頂き、活発な意見交換がなされ、連帯感の醸成から建設産業活性化の取り組みへの体制構築に資することが出来た。

研修会の様子→



## ⑥おわりに

本報、新潟県での取組みにより、産官学が連携して建設産業活性化に向けた具体的な活動(行動)を行うことの出来る体制構築が出来た。これにより引き続きこれまでに挙げた「担い手確保」「人材育成」「業界のイメージアップ」での課題に対してより継続的かつ効果的な取組への発展が期待できる。また併せて、小委員会では右記情報発信ツールを用いた取り組みを行っていることから、引き続きこれらを活用して情報発信を行うことで、より幅広い業界にわたる連帯感も深めていきたい。

Twitter



[https://twitter.com/jsce\\_wakate](https://twitter.com/jsce_wakate)

HP



<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/>